

第3回学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時：2024年4月24日（水）18：00～19：30

2. 場所：オンライン実施（Zoom）

3. 出席者

学外委員

池 穂波委員（新潟県済生会三条病院 看護部長）

今井智之委員（三条市立大学 理事・事務局長）

渡辺和宏委員（三条市歯科医師会 会長）

五十音順

学内委員

白倉政典（三条看護・医療・歯科衛生専門学校 校長）

星野順也（三条看護・医療・歯科衛生専門学校 副校長）

浅川淳子（三条看護・医療・歯科衛生専門学校 看護学科副校長）

江田健太（三条看護・医療・歯科衛生専門学校 事務局長）

加藤佐知子（三条看護・医療・歯科衛生専門学校 教務部長補佐）

4. 内容

1）2023年度運営状況説明（星野）

（1）学校概要（資料参照）

- ・2024年度から「医療事務・アシスタント学科（1年制）」設置。
- ・過去最高の在籍者数となった。
- ・県内生に占める県央地域出身者はほぼ半数。

（2）各種目標・実績状況（資料参照）

〔国家試験・各種検定試験〕

- ・看護学科全国合格率以上。昨年度不合格だった2名の既卒者合格。
- ・歯科衛生士学科90.7%合格。4名の不合格者となった。
- ・医療事務学科ほぼ100%合格。県内でも高いレベル。

〔学生募集〕（江田）

- ・入学者116名で開校以来最も多い。半数の58名が県央地区出身者。
- ・歯科衛生士学科は初めて定員充足した。
- ・県央地域からの入学生割合50%は開校以来最も多い。
- ・実習先中心に職業啓蒙にご協力いただいた。

〔退学抑止〕

- ・学習習慣がなく授業についていけない。
- ・友人関係等で精神的に不安定になるケースもある。
- ・中学、高校の時から不登校気味の学生もいる。
- ・実習での躓きがきっかけとなるケースもある。

〔就職内定状況〕

- ・就職希望者全員専門職就職内定。
- ・県内割合は看護学科 7 割、歯科衛生士学科 8 割、医療事務学科 95%以上。
- ・県央地区への就職、実習先への就職推進に努めている。

2) 2023 年度自己評価の説明と学校関係者評価委員からの意見

(1) 教育理念・目標

学生便覧、募集要項等へ記載。オリエンテーションで学生へ説明。学生へは説明し理解してもらっているが、保護者への情報発信が不十分である。また、教職員が共有する運営理念 3 つを申し合わせて指導している。(白倉)

- ・教育理念を浸透させるための方法についてアドバイスをいただきたい。(白倉)

→何かの折に触れ読み合わせることや、様々な場面で迷った際には理念に立ち返って考えることを習慣づける。(池)

→職員研修を通して理解を深め、カード形式にしたものをデスクの上に置いている。(今井)

→常日頃見えるようにし、また復唱する。(渡辺)

(2) 学校運営

養成施設として法令に従い適切に進めている。事業計画も設け計画的に運営を行っている。法人全体で勤怠管理システムが導入され密度を濃く働くよう取り組んでいる。

- ・働き方改革を含め職員の確保、継続のための取り組みで何かあれば教えていただきたい。(星野)

→選ばれるためには残業を減らす、有休の取得率を上げる、定年後の継続雇用等。

メリハリをつけて働くことについて全体で取り組む。(池)

→休日出勤の代休をしっかりとってもらう。緊張した状態が続くのではなくメリハリをつけて働く。モチベーションを高く働くためやりがいを持てるような配置、分担に気を配る。(今井)

→有休消化 100%、時間外手当 1 分単位。従業員は定時に上がれるように配慮している。人数が多いからこそそのようにできるため、雰囲気作り等も含め長く働ける環境作りは大切。(渡辺)

(3) 教育活動

計画通りに実施できている。自己チェックについては年に 2 回学生へアンケートを取り、教職員の振り返りに活用している。医療事務学科に続き他 2 学科

も職業実践専門課程認定。(白倉)

- ・看護学科の新カリキュラムで重要視されている「臨床判断能力」について新人に対してどのようにフォローしているか。また学校で「臨床判断能力」を身につけるためにはどのような教育を行ったら良いか。(浅川)
- チームで働いており24時間継続している業務の申し送りをしっかりと行う。その際にフィードバックをしてカンファレンスを必ず持つ。(池)
- 学校では模擬患者でバイタルサインをどう読み取るか、バイタルサインについて常に考える習慣をつける。(池)

(4) 学修成果

国家試験で全員合格はできなかったが、模擬試験では大分いいところまで得点できるようになっており、歯科衛生士学科ではある意味予想外の結果だった。昨年度不合格だった看護学科の2名は合格しており継続したフォローが大切。

就職の面で県内就職80%以上という目標が達成できなかった。県央地区、新潟県の魅力をもっと伝えていくことが大切。(白倉)

- ・国家試験に向けた学習はテクニックだけでは合格できないものだと考える。臨地実習での学びをどのように学校で国家試験対策に結びつけたら良いか。また、就職について、県央地区の就職を増やしていくための取り組みが何かあればお聞きしたい。(加藤)
- 臨地実習で教えていることと国家試験対策はリンクしていない。それ以前に実習に来る学生の学力が低すぎる。補講、試験等でしっかり知識をつけて実習に来るともっと学びに繋がる。(渡辺)
- 実習は受け身ではなく獲得していくもの。事前学習でいかに準備してくるかが大切。そこが何より鍵になる。(池)
- この地域の産業を知ってもらうための取り組みを1年生から実施している。また2,3年生はこの地域の企業へ実習に行っている。カリキュラムも企業の方とともに作っている。実際にこの地域の企業から内定をもらっている学生もいる。(今井)

(5) 学生支援

就職の支援体制、スクールカウンセリングのサポート体制、経済的支援として法人独自の奨学金制度、学費の延分納制度、教育訓練給付金制度認定(医療事務学科、歯科衛生士学科)など支援体制を整えている。(白倉)

- ・少子化の中社会人の学び直しに関して、社会人経験のある専門職者は新卒とは違う期待感はあるか。(星野)
- 看護師は割と社会人経験者は多く、とても意欲的。これまでの経験も生かされている。ただ、体力勝負であるため年齢的な面での働き方は検討が必要。(池)
- いろいろな経験を踏んだ上での職業選択は非常に良い。学校でも核になるような学級運営をしたら良いのではないか。(渡辺)

(6) 教育環境

設備、備品等充実した中で運営できている。国際化を推進するべく、今年度から海外研修も希望制で実施。(白倉)

- ・医療現場で実際に異文化理解は必要と考えるかお聞かせいただきたい。(江田)

→言語は様々なツールでカバーできるが、外国の方も受診に来られるため、対人理解という点では良い経験だと思う。様々な面で配慮が必要だと気づくだけでも大きい。(池)

→技能実習生も多い地域なので、文化の違いを学ぶことは大切。(渡辺)

→海外の大学との提携、留学生の受け入れも今後構築したいということで準備をしている。海外に興味を持っている学生も多い。国際的な視点、異文化へ触れたいという興味は大きい。(今井)

(7) 学生の受け入れ募集

オープンキャンパスやパンフレット等で広報活動を行っている。検定・国試や、就職の実績も入学を検討している方への安心材料となっているのではないか。(白倉)

- ・募集活動で力を入れている点についてお聞きしたい。(江田)

→今後、強化していく地域は特に定めていない。多くの学生に志願してもらいたいため全国を視野に入れている。(今井)

→学生へのアンケートでは、先生、親の勧めが多く、また受験を決めたタイミングは共通テスト後が多い。そのため、オープンキャンパスには参加していない入学生も多い。全国の高校へ訪問すること、学長自ら高校生へ語りかける機会を設けて力を入れていく予定。(今井)

(8) 財務

法人として運営しているためこの場では割愛。(白倉)

(9) 法令の遵守、社会貢献・地域貢献

養成施設であり、申請ごと等ルールにしたがい進めている。(白倉)

(10) 社会貢献・地域貢献

コロナもあけ今後三条市と協力しながら今後さらに進めていきたい。(白倉)

5. 次回予定 2025年4月